



### この号の内容

- p1. CAN 総会とコンサート&トークセッション報告
- p2. // その2、第45回京都市人権交流集会案内
- p3. 地域活動報告「東九条マダン」、韓国「固城五廣大」公演
- p4. 東九条エリアマネジメント報告、「事務局からのお知らせ」

## 第5回京都・東九条CANフォーラム総会とコンサート&トークセッションが開催されました

### 9月21日CANフォーラムの総会が開催！

今年の総会は多文化交流ネットワークサロンにて3部構成で開催されました。第1部はCANフォーラムの会員による総会としてもたれています。朴実代表の挨拶の後、金周萬事務局長の活動報告及び会計報告、次年度の活動方針案等が提議され、了承されました。

### 第2部はバイオリンと十七弦の演奏会！

その後会場をネットワークサロンの大ホールに移し、中村公俊さん（京都芸大真声会事務局長）のバイオリンと十七弦の麻植理恵子さんによるコンサートがもたれました。現在下京区の崇仁地区に京都芸大を移転する計画が浮上しています。京都芸大とはどんな学校で、地元はどんな受け入れ方をしたらよいか、それを考えてみようと思案されたものですが、演奏が始まるとその迫力に皆驚かされました。普段クラシックになかなか触れる機会が少ないと思われる町内のご高齢の方々も参加されていましたが、皆さん真剣な眼差しで聞き入っていたのが印象的でした。

### 第3部は京都芸大移転を考えるトークセッション！

第3部の冒頭中村公俊さん（京都芸大真声会事務局長）から、移転が計画されている京都芸大とはどのような学校なのかの説明があり、学生は約1千人程で教師も何百人がいる事、各地の卒業生で真声会を作っていることなど学校の紹介がなされました。

西川隆善さん（前下京区長）は区長をされた経験から、行政境界がものを考えるさいの邪魔になるとの視点を出されました。京都駅の北部＝下京区、南部＝南区となるが、京都駅東部として一体的な考え方をすべきではないか。また高瀬川が下京～南区を貫いていることも活用できないか。崇仁では、将来ビジョンが出され周辺学区を巻き込んだまちづくりが始まっている。東九条も中心4カ町中心だけではなく、山王学区全体を見るべきだ。学校跡地の問題、八条口再開発、芸大移転での空き地活用などで地元自治連との関係を持ちながら、住民との合意形成を図ってはどうか。NGOの「志縁」と自治連等の「地縁」との結合が大切、という視点を提起された。（⇒2Pに続く）

東九条名物シリーズ  
農楽（プンムル）その4



今回は「チャンゴ」を紹介します。音は空からしとしと降る雨を、形は人を表す打楽器。木をくりぬいた砂時計型の筒の両面に馬や牛などの動物の皮を張った太鼓。左右の皮は音が異なり、左側は先端が丸いものがついているクングルチェという桴を使うか平手で叩く。右側は竹でできた桴のヨルチェをしならせながら叩く。手首は縦ではなく、横に回転させる。左の桴は時に右面も打って往復します。胴体と革を紐で固定しており、紐に挟まっているプジョンでチューニングをします。

- 個人会員 1口 1,000円  
一口1,000円で何口でも結構です
- 団体会員 1口 5,000円  
一口5,000円で何口でも結構です

- 賛助会員 いくらでも結構です  
活動に使わせていただきます
- 特別会員 会費負担なし  
どんどん活動に参加してください

**ご協力を頂いたみなさま、引き続き会費納入にご協力ください。  
この活動は皆様の支援に支えられ行われています。**

(⇒ 1P より続く)



朴実代表の挨拶、CAN フォーラム総会は、いつものように地味に開催されました



あまり聴くことの少ないバイオリンと十七弦の演奏、美しい響きに魅せられ、みな聴き入っていました。音楽には力がある！



左から中村公俊さん(京都芸大卒業生の「真声会」事務局長、西川隆善(前下京区長)、叶信治(東九条改善対策委員会事務局長)



左端、鄭禧淳(ちよん ひすん)、NPO 法人コリアン生活センター「エルファ」理事長



叶信治さん(東九条改善対策委員会事務局長)は、東九条における在日コリアンの集住の歴史を振り返りながら東九条は歴史的に多文化の町であったとの視点が提起されました。同時に改善対策委員会の活動を報告し、困窮や火災に悩まされた歴史の中で、1989年の地上げ問題を契機に安心して住める市営住宅建設の運動が起き、福祉地区指定を勝ち取り老人福祉施設や市住建設を進めて来た歴史を振り返りました。そして高齢者や若者が住みたくなるまちづくりという視点から芸大移転問題を捉えているとの考えが表明されました。

鄭禧淳さん(NPO 法人エルファ理事長)は、在日1世の介護に取り組んだ15年の歴史を振り返りながら報告がありました。在日1世の介護に取り組んだ時、就学出来なかったがゆえに唱歌を歌えない事や、認知症になると朝鮮語しか通じなくなる現実には2~3世にショックを与えた。この現実に対応するためにエルファを立ち上げ、バイリンガルのヘルパーの育成を始めた。現在160人位の利用者がいるが、内2世が35%と増加している。時代は変わったが、対応を変えながら今後も在日高齢者を支えていきたい、と述べられた。

最後に朴実さんより、東九条で生まれ育った自分史を述べるとともに、今後の東九条を考えると、今回の京都芸大移転計画への対応の大切さを訴えられた。また京都芸大のOBの立場から、現状は学生にとって決して良い条件にならないこと、移転により交通や地域とのアクセスを良くし、学校の活性化を図るべきとの視点が提起された。

以上の報告ののち、トークセッションに移り様々な団体・個人の発言・提言がありました。特に崇仁地区で芸大移転計画問題に取り組んでいる地域住民組織からの参加者からは、まちづくりシンポジウムの案内と活動報告がありました。崇仁では、差別と闘ってきた人権を大切にしたいまちづくりに取り組んでいること、東九条から芸大移転問題で南区長に要望書が出されているが、隣接している地区として一緒にやっていきたい等の表明がなされました。その一方、崇仁出身の東九条住民の方からは、芸大移転で住民が追い出されないか、学生が増えても地域に住まなかったら地域に貢献しないのではなどの発言もありました。最後に中村さんから、芸大の学生は移転問題の視点在日や同和問題を考えていない、今後学生に本当にこの地にくる覚悟があるのかが問われるとの発言がありました。盛りだくさんの企画の中で、有意義な視点がさまざまに出されてトークセッションが終了しました。(NL 編集集中に中村公俊さんが2013年度青山音楽賞「バロックザール賞」を受賞されたニュースが入りました。この場を借りてお祝い申し上げます。)

## 第45回京研集会の第2分科会を主幹します

来る2月22日(土)午前9時30分より、大谷大学において第45回人権交流京都市研究集会が開催されます。本集会は、現代社会に存在するさまざまな人権課題に取り組む人々が貴重な実践経験や研究成果を持ち寄ることで交流・相互理解・連帯を深め、共生・協働の社会創造をめざしています。今回もCAN フォーラムは第2分科会を主幹し、「ヘイトクライムと多文化共生」-京都朝鮮第一初級学校裁判とこれからの課題-をテーマに、中村一成さん(ジャーナリスト)、富増四季さん(弁護士長)、郭辰雄(コリア NGO センター共同代表)を招き、朴実(CAN 代表)を交え、裁判の意味と今後の課題を検討します。

## 東九条マダンに CAN 恒例の「スジ焼き肉」出店参加

2013年11月3日（日・祝）第21回東九条マダンが元山王小学校で開催されました。当日は朝からどんよりとした空模様で、開催が心配されましたが、予定通り10時に開会され、予定より早いテンポで進行されました。天気予報通り午後1時頃から小雨が降り出しましたが、パン（校庭での野外舞台）では雨用の天蓋テントが準備され、大サムルノリや、マダン劇など、最後の「和太鼓&サムル」まで、主な演目を無事終えられました。

天候の影響もあって参加者は今年の6000人には及びませんでした。それでも約4000人の参加者があったことは、東九条マダンが地域の人々に親しまれ、根付いていることを物語っています。今回の演目で感慨深かったのは、初めてアイヌ民族の出し物と体験コーナーが設けられたことや、東九条出身で幼い頃からマダンに出ていた李紗栄（リ サヨン）が、2012年日本クラシックコンクール声楽部門最高賞を引っさげて凱旋出演してくれたこと、また7月29日に亡くなられたマダン生みの親とも言える梁民基（ヤン ミンギ）先生を追悼して特別企画「詩と歌の構成」がハンマダンのメンバー等によって上演されたことでした。

CAN 恒例の「スジ焼き肉」の出店は、今年から NPO 法人「京都暮らし応援ネットワーク」との共同出店となったこともあり、勢い昨年より多い30kgの量を準備し、内心売れ残りを心配しましたが、1時過ぎには完売することができました。今年は日曜日開催となり、いつも手伝って下さる洛南教会の方々が来られないので人手不足を心配していましたが、大阪人間科学大学の学生などが30名近く応援に駆けつけてくれて大助かりでした。雨の中、準備や後片付けなど、スタッフのみな様ご苦労様でした。

## 韓国「固城五廣大」京都公演を共催

2013年11月30日（土）多文化交流ネットワークサロンにて CAN フォーラムとコリア NGO センター共催（京都市後援、多文化交流ネットワークサロン協力）で、韓国の重要無形文化財「固城五廣大」京都公演を開催し、約100の来場者と共に観劇を楽しみました。

「固城五廣大」とは、韓国では伝統芸能として仮面劇（タルチュム）がおこなわれていますが、これは地方によって、「山台（サンデ）」、「五廣大（オグァンデ）」、「野遊（ヤユ）」、「タルノリ（仮面遊び）」、「別神（ビョルシン）」、「クツノリ」などと呼ばれています。「固城五廣大」は現存する慶尚道のなかで、もっとも原型に近い形で保存・伝承されているもので、1964年には重要無形文化財に指定され、1973年には全国民俗芸能競演会で国務総理賞、1974年には大統領賞を受賞しています。

当日はハンマダン（1986年に結成された韓国民俗芸能集団、在日コリアンと日本人が「共に生きる」ことができる場所を理念として謳っている。）も共演を行い会場を盛り上げました。公演会のあとは、今回の招請団体（社）固城五廣大保存会の出演者20名と関係団体のみなさまと共に、近くの韓国料理屋さんで、夜遅くまで懇親を深めました。



雨が降り出すとテントが設置され、無事に予定を終えることができました。21回もやると手際もよくなるものですね。こんなところにも感心！



30kgのすじ肉も3時間余りで完売、昨年よりは焼く時間が早くなったおかげです。来年はさらなるパワーアップを計画中です。



韓国民俗劇に独特なユーモラスな踊りとセリフまわし、観客には言葉の壁を越えて十分に面白さを感じてもらえたと思います。

コリアンのお年寄りには懐かしさに、目に涙を浮かべる方も……





## 事務局からのお知らせ

2月9日(日)13:30～16:30

山本宣治と尹東柱

「治安維持法」と「特定秘密保護法」

1部 読んで伝える詩演説文川柳俳句新聞  
記事物語

2部 今言わなければ

山本宣治は「治安維持法」絶対反対をつらめた…… 藪田秀雄(宇治山宣会会長)

「治安維持法」の拡大解釈と尹東柱の逮捕  
水野直樹(京大人文科学研究教授)

「ぼくは満員電車で原爆を浴びた」  
米澤鉄志(広島の被爆者・宇治平和の会)

ヘイトスピーチを生む社会の恐怖  
朴実(京都・東九条 CAN フォーラム代表)

3部 会場からの発言

司会 仲尾宏(京都造形芸術大学客員教授)

会場:ゆめりあうじ(JR 宇治駅前)

主催:詩人尹東柱記念碑建立委員会

詩人尹東柱を偲ぶ京都の会

京都・東九条 CAN フォーラムも協賛団体

2月22日(土)9:30～

第45回人権交流京都市研究集会

記念公演「福島は今、日本の今、子供たちに手渡せる未来」…志葉玲(ジャーナリスト)

分科会:13:00～

会場:大谷大学(烏丸北大路)

4月12日(土)10:00～

第3回東九条春まつり

会場:京都市地域・多文化交流ネットワークサロン

京都・東九条 CAN フォーラム

〒601-8013 京都市南区東九条南河原町3

075-204-7900

<http://higashikujoforum.jimdo.com/>

E-mail/higashikujoforum@gmail.com

## 東九条エリアマネジメント（準）報告

前回のニュースレター（8月20日発行11号）で、10月にエリアマネジメントの本格的な立ち上げを予告していましたが、時期尚早との意見が多く、しばらくは準備会のまま続けることになり、設立総会予定日の10月26日は拡大会議に変更されました。当日は新たに「NPO 法人京都暮らし応援ネットワーク」「NPO 法人エルファ」や元市議員の参加があり、少し活動の幅が広がりました。

この間の主な活動は、11月3日東九条マダン開催に合わせ「崇仁・東九条エリアマップ」を7000部発行しました。このマップは2013年（平成25年）度「みなみ力で頑張る！区民応援事業」の助成金事業として行われました。（京都しみん新聞南区版12月号に掲載）また、韓国市民団体の寄付などにより、現在ハングル版、英語版、中国語版を作成、増刷中です。

また、昨年3月の京都市立芸術大学が崇仁地域への移転希望表明以後、崇仁地域だけでなく、隣接する東九条も連携していく動きが活発になってきました。7月には東九条エリアマネジメントの共同代表が南区役所を訪れ、東村区長と面会し、門川京都市長への要望書を提出し、芸大移転を崇仁地域に限定するのではなく、東九条地域を含む京都駅東側エリア一帯の活性化を目指して欲しいと要望しました。本年1月市長は年頭記者会見で市立芸大の崇仁地域移転を正式に表明しました。しかし、芸大移転は今後10年計画であり、東九条のまちづくりの課題は、膨大な空地活用、閉鎖されたままの空き店舗活用が中心だと思われます。これらの課題や問題点を踏まえて、今後ワークショップなどを開催し、課題の具体化を諮っていきたいと思います。



「東九条春祭り」でのプンムル、最後は会場全体が盛り上がります